

令和2年度 うめ防除暦

【表示されている農薬の使用基準は令和元年12月4日現在の登録内容です】

JA佐渡・うめ倶楽部

回数	散布時期 (生育状態)	主な対象病害虫	10a 散布量 (成木、手散布)	薬剤名	散布濃度	100% 当 薬量	収穫前 使用 時期	使用 回数	使用上の注意
臨時	休眠期	カイガラムシ類	100	機械油乳剤95	14倍	7L	-	-	・カイガラムシ及びウメケムシの卵塊は枝から除去する。 ・機械油乳剤95に替えてハーベストオイル50倍でもよい。
1	3月上旬まで (休眠期)	カイガラムシ類 ハダニ類	200	石灰硫黄合剤	7倍	14L	発芽前	-	・無風、温暖日に丁寧に散布する。 ・機械油乳剤95散布後は1ヶ月以上間隔をとる。
2	開花直後 (落弁期)	かいよう病	350	Zボルドー	500倍	200g	葉芽 発芽 前	-	・新葉にかかるると薬害が発生するので、葉芽発芽前までの散布とする。 ・石灰硫黄合剤との近接散布は避ける。Zボルドーに替えてICボルドー66D50倍(葉芽発芽前)でもよい。
3	4月中旬 (満開10～ 15日後)	カイガラムシ類 アブラムシ類	350	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	50g	前日	3	・ヤニ部分は幼虫を除き捕殺する。 ・ウメケムシの幼虫群は見つけ次第に捕殺する。 ・風当たりの強い園地は防風対策を実施する。
		黒星病 すず斑病 灰色かび病 灰星病		ベルコート水和剤	2,000倍	50g	30	3	
		かいよう病		マイコシールド	1,500倍	66g	21	4	
臨時		かいよう病	400	スターナ水和剤	1000倍	100g	7	3	・かいよう病多発園では、強風雨直前に散布する。
4	4月下旬 (幼果期)	アブラムシ類	400	ダイアノジン水和剤34	1,000倍	100g	21	2	・薬剤の収穫前使用時期に注意する。 ・隣接作物との薬剤散布について充分注意する。 ・カイガラムシ多発園ではアブロードフロアブル1,000倍(7日/2回)を単用散布する。
		黒星病 すず斑病		オーソサイド水和剤80	800倍	125g	21	3	
5	5月上旬(果 実肥大期)	アブラムシ類	400	ウララDF	4,000倍	25g	7	2	・ペンコゼフロアブルの収穫前使用時期に注意する。 ・6月に散布がずれこむ場合は展着剤は使用しない。 ・灰星病多発園ではフルーツセイバー1,500倍(前日/3回)を単用散布する。 ・ペンコゼフロアブルに替えてアミスター10フロアブル1,500倍(前日/3回)でもよい。
		黒星病 かいよう病 すず斑病		ペンコゼフロアブル	1,000倍	100ml	21	3	
6	5月下旬～ 6月上旬 (収穫前)	アブラムシ類 カメムシ類	400	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50g	前日	3	
		黒星病 すず斑病		スコア顆粒水和剤	3,000倍	33g	前日	3	
収穫後防除									
7	7月上中旬 (収穫後)	カイガラムシ類	400	スプラサイド乳剤40	1,500倍	66ml	14	2	・収穫後散布とする。 ・ウメシロカイガラムシ第2世代のため必ず散布する。 ・スプラサイド乳剤に替えてスプラサイド水和剤1,500倍(14日/2回)でもよい。
臨時	9月上旬 (収穫後)	アブラムシ類 黒星病 かいよう病 すず斑病	400	スミチオン乳剤	1,000倍	100ml	14	2	・ペンコゼフロアブルに替えてデランフロアブル2,000倍(14日/2回)でもよい。
				ペンコゼフロアブル	1,000倍	100ml	21	3	

(注1)

農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談してください。

周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。(他の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。)

農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう！

散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。

防除は生育や病害虫の発生予察に注意して適期に実施しましょう。

園地環境(防風樹の整備・草刈りの徹底)をよくしましょう。

(注2)

薬剤混用の順序(水和剤混用の場合) 水 → 展着剤 → 殺菌剤 → 殺虫剤

薬剤混用の順序(乳剤混用の場合) 水 → 乳剤

薬剤混用の順序(フロアブル剤、水和剤混用の場合) 水 → フロアブル剤 → 水和剤

※ボルドー液の場合はボルドー液調整後に展着剤→殺虫剤の順に混用しましょう。